

青梅市社会教育委員会議 11月定例会会議録

令和3年11月16日
203会議室
出席者 委員 10名
事務局 3名

1 開 会

【議長】11月6日にブロック研修会、11月11日に4年越しの準備を終えて東京大会を開催できた。ブロック研修会のワークショップもグループ討議で活発な意見交換ができ、良かった。東京大会では講師対応という裏方をしてしたが、先生方も和やかで、終わった後に充実した表情でいたので、いい大会になったと思う。健康体操では、会場の皆さんも実際に体操しており、和やかな雰囲気が出てよかった。12月に交流大会がある。最後までよろしくお願ひしたい。

【課長】ブロック研修会、東京大会では御協力をいただき、ありがとうございました。異動してきて一か月、慌ただしく過ぎ去った。今日も議題がたくさんあるが、よろしくお願ひしたい。

2 報告事項

- (1) 令和3年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第1ブロック研修会について (報告資料1)

ア 日 時 令和3年11月6日(土) 午後2時～

イ 場 所 ネットたまぐーセンター(青梅市文化交流センター)
多目的ホール

ウ 参加者

宮野	金子	刀禰	神山	市川	栗原	吉野	山川	横手	園田
○	○	○	○	○	○	○		○	○

事務局：遠藤、土屋、田中、谷垣、田畑

【事務局】事務局から概要説明。コロナ禍で、パーティションとマスクがあつて聞きづらかったという意見が多かったのは申し訳なかったが、皆さんが身を乗り出して熱心に聞いていたのは感慨深かった。委員の皆さんから御感想をいただきたい。

【副議長】パーティションが邪魔で身を乗り出して話し合っていたが、皆さんがそれぞれ考えを持っていて、いろいろな方と意見交換ができ、とてもよかった。皆さんの話をしたいという気持ちも伝わってきた。いい時間になった。参加したゆめなりきのメンバーは成木の方が1名しかいないのは驚いた。SNSで集って行っているとのことで、こういう方法もあるのだという提示ができて良い会になったと思う。

【委員】声が聞きづらいのでパーティションを取っ払ってもいいかと聞かれ、事務局に確認したところ、皆さんの共通の意思があればいいと言われたが、やはり状況を考えて取っ払わずに行った。いろいろな地域の方がバラバラになって話せたのはよかった。テーマが大きくて、まとめるのが大変だった。ゆめなりきの事例は話しやすかったが、もう一つのテーマは範囲が広すぎたので、もう少し絞った内容のテーマでよかったのではと思った。皆さんが意欲的で良い会になった。

【委員】グループワークで、それぞれの地域性の事例も話していただき、良かったと思う。時間がなかったが、一つの方向性としては、現場にどうかかわっていくのかということが大切だという認識をもって帰っていただけたと思う。45年以上前に成木の調査をした際に、里仁会々館で寝袋を持ち込んだりした。ゆめなりきの方と名刺交換もできてよかった。当時から過疎に危機感を持っていたが、今こういうグループが立ち上がっているのはうれしいという旨を伝えた。

【委員】全体的にスムーズにうまくできてよかった。グループ討議はマスクとパーティションで話しづらかったが、いろいろな話が出てよかった。

【委員】パーティションとマスクがあり聞こえないことが多かった。5人の班で、2人ごとで話し合い始めたりしてしまい、まとめるのが大変だった。基本は、自治会活動が円滑にできて、できるだけ都会化しないことという結論になった。

【委員】聞こえづらく、身を乗り出しながら話した。最初はなかなか話が始まらなかったが、私が話し始めていったら口が温まりどんどん話し始めて、限られた時間でコントロールするのが大変だった。ゆめなりきの話で盛り上がった。立ち上げが大変だったという話を聞き、自治会のイベントなどに参加してつながりをつくっていったという。つくりあげた盆踊りは、地域のつながりを作れるものになっていた。ゆめなりきのように、今の子どもたちが大きくなって成木から出て行っても、また戻ってきて地元を助けようというような気になるのではないかと思った。伝統芸能がないような地域にとっても、いい事例を聞けたと思う。

【委員】感染が収まっている時期でよかった。いろいろな人に会えて話ができて楽しかった。ゆめなりきは地域も近く交流もあり、身近な森を活用する会には私も入っている。現在、市内だけでなく都内からも参加する人が来ていて、いい活動になっている。子どもたちが身をもって体験できているのがいい。ゆめなりきは若い方がやっているのがうらやましい。地域が元気になっていくのに、核になっていく人がいるかいないかは重要な点である。

【委員】ゆめなりきの活動が素晴らしかった。グループワークは、最初は促していかないと進まなかったが、子どもたちのためにどうしていくか、真剣に考えていくことができ、素晴らしかった。

(2) 第52回関東甲信越静社会教育研究大会東京大会について

(報告資料2)

ア 日時 令和3年11月11日(木)午後0時30分～

イ 会場 府中の森芸術劇場 どりーむホール

ウ 参加者

宮野	金子	刀禰	神山	市川	栗原	吉野	山川	横手	園田
○	○		○	○				○	○

事務局：遠藤、土屋、田畑

【事務局】事務局から概要説明。東京大会もいい大会にできたと思う。委員の皆さんから御感想をいただきたい。

【副議長】アトラクションに登場した着ぐるみの「ひばピー」が可愛く、全体で体操できる雰囲気づくり・つかみがうまくいったと思う。牧野先生の話も、しっかりした資料をたくさん提示されており、ここに残る部分もたくさんあった。健康寿命がこれから大切な中、人とかかわることで健康度が上がるというのが心に残った。トークセッションは、コーディネーターの方がスムーズに進行していただき、とても良かったと思う。青梅市委員から上がった質問もよかった。

【委員】分科会はなく1日で終わったが、基調講演の牧野先生の言いたいことは、いろいろな地域性の部分で、受け身ではなく、何を仕掛けてどういうふうにみんなで行っていくかをコンセプトとしている。長寿社会だからこそ、生涯学習や社会教育で、家にこもるのではなく、地域に溶け込んでいくのがいい、という彼の持論である。刺激を受けたいい講演で、大きな大会が無事に終わってよかった。

【委員】東京大会は、いろいろ勉強になった。学び続ける社会など、いろいろなキーワードがあり、聴けて良かった。

【委員】大学の先生の話はすっとんと落ちない話が多く、具体的な助言等がいただけないことが多いが、牧野先生の話はこちらに寄り添った話だったので、いい話が聞けた。

【委員】地域のつながりが希薄になっている中、コロナ禍でもあり難しい状況ではあるが、新しいコミュニケーションツールができているのかと思う。学校でも部活動が成り立たなくなっている。身近にボランティアでサッカーをやっている方がいるが、2学年で2チームしかできない状態で、保育園に協力を求められたことがある。他の保育園にも声がけをした。そのような形でつながっていけるといいと考えている。

【議長】「ぐずぐずしていいのか」という質問に対し、試行錯誤していけばいいものが見えてくるものもあるという回答があり、心に残る言葉だった。きちんと進めていく難しさがあるのだと思った。東京大会が、各県の皆さんにもうまく届くといいと考えている。

【事務局】12月1日から、オンラインで他県の方にも見ていただける状態に

なる。またその際は情報を発信する。いいものができていると思う。青梅市委員の質問も素晴らしかった。

【議長】あの質問を契機に、他の方の質問も挙がってきたのだと思う。

(3) 令和3年度関東甲信越静社会教育研究大会東京大会実行委員会第12回
実行委員会の開催（オンライン開催）について （報告資料3）

ア 日時 令和3年10月26日（水）午前10時～

イ 参加者 宮野議長、事務局（土屋、田畑）

【事務局】大会報告書については、業者に文字起こしをしてもらう。それをもとにして事務局で構成したものについて、委員の皆さんにも意見をいただいたりしたいと考えているので、御協力をいただきたい。2月に最後の実行委員会を開催予定である。

(4) 令和3年度青梅市芸術文化奨励賞について （報告資料4）

【事務局】事務局から概要説明。社会教育委員会議からの提案どおりの適否になった。六中と吹上中の合同チームについては、教育委員からぜひトロフィーと副賞を両校にあげてほしいとの話があり、両行に贈呈することになった。

～質疑なし～

(5) 生涯学習事業実施予定・結果 （報告資料5）

【事務局】事務局から概要説明。図書館、美術館の予定、真鍋先生の講演会、多摩リハビリテーション学院の講座の結果が掲載されている。

～質疑なし～

(5) その他

特になし

3 協議事項

(1) 青梅市社会教育委員会議10月定例会会議録について （協議資料1）

【事務局】事務局から概要説明。

～承認～

(2) 令和4年成人式について （協議資料2）

ア 日時 令和4年1月10日（祝） 第1部 午前10時 開場
午前10時30分開式
第2部 午後0時30分開場
午後1時 開式

イ 会場 住友金属鉾山アリーナ青梅（青梅市立総合体育館）

ウ 出席者

	宮野	金子	刀禰	神山	市川	栗原	吉野	山川	横手	園田
第1部		○			○	○		○	○	
第2部	○		△	○			○			○

【事務局】事務局から概要説明。市長式辞、議長祝辞、誓いの言葉、ビデオレター上映、タイムカプセル返還となる。主催者として出欠を確認したい。今後、案内の手紙と駐車場関係書類を送付する。

(3) 令和3年成人を祝う会について (協議資料3)

ア 日時 令和4年1月9日(日)午後1時から(零時30分受付開始)

イ 会場 住友金属鉦山アリーナ青梅(青梅市立総合体育館)

ウ 出席者

宮野	金子	刀禰	神山	市川	栗原	吉野	山川	横手	園田
○	△		○	○	○	○		○	○

【事務局】事務局から概要説明。講演者が決まった。市長の挨拶、ビデオレター上映、講演会を行う予定。12月1日に案内状を対象者に送る。近日中にHPに公開するので、対象者の知り合いがいたら、口コミで広げてほしい。主催者として出欠を確認したい。

(4) 令和3年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会交流大会・社会教育委員研修会について

(協議資料4)

ア 日時 令和3年12月11日(土)13時30分～

イ 会場 府中市市民活動センタープラッツ バルトホール

ウ 内容 式典・各ブロック研修会実施報告・講演

エ 参加者

宮野	金子	刀禰	神山	市川	栗原	吉野	山川	横手	園田
○	○			○				○	

【事務局】事務局から概要説明。出席できるのは、事務局を含めて6名以内。事務局2名が行く必要があるため、委員は4名としていただきたい。出席者に対して、後日、集合時間等を連絡する。

(5) 令和3年度ブロック研修会実施報告書等について (協議資料5)

【事務局】事務局から概要説明。修正案等は、提出期限前に事務局に連絡をいただきたい。

【事務局】研修のグループワークの第1ラウンドで、各班から出た話を参考にお聞かせいただきたい。

【委員】隣組の重要性の話が出た。回覧板は、読ませる回覧板ではなく、見せる回覧板である必要がある。見てわかる文章でないと読んでもらえない。

【委員】ゆめなりきでは、発信の方法としてSNSを有効に使っていた。メンバーが集まっていく過程でも、発信でもSNSを利用していた。これからはSNSも重要な時代。

【議長】ゆめなりきは、地元自ら入って行って、信頼関係を作っていた。自分たちを地域にアピールすることをやった結果、地域との連携ができていた。現場に入っていくことが重要。

【副議長】連帯感をすごく持っている。過疎が進んで学校がなくなったら大変。ゆめなりきでは、自分たちの問題として、連帯感を持って取り組んでいたのがいい。1年間でどうやって自治体とコンタクトを取り、どうやって組織化していったのだろうという疑問がたくさん出て、発表の際に質問をあげた。

【委員】お金がかかること。ゆめなりきの活動のスタートは、応募したら自治体の予算が下りたのがきっかけだったと聞いた。経済とつながるといのが大事なポイント。市が補助金を出してくれたのが大きく、有効に使えていた。

【事務局】グループワーク第2ラウンドで、各班から出た話をいただきたい。話が大きすぎて難しかったという声が多かった。具体的な事例を聴いて、自分たちにどういうアクションができるか、自分たちに立ち返って考えてみようというのがポイントだったが、タイトルがかなり大きかったため、困惑してしまったかもしれない。

【委員】グループの立ち上げや、認めてもらうのに苦労したという話があった。自治会の事務局は市民センターがやってくれるが、一般の方は知らない人が多い。社会教育委員がコーディネーター役として役立っている部分があるのではないか。社会教育委員として、地域の人たちとつなげる役目ができるようになりたいという話をした。

【委員】奥多摩は、何年か住んだら家をもらえるという事業がある。若い人たちに頑張ってもらうのが重要。

【委員】年長者のグループが多い。班の中にいた若い方に聞いたところ、若い人にとっては入りづらいとのことだった。若い人がどうやって入っていくかが重要。

【委員】地域の真ん中に学校がある。学社連携、融合、そして、学社一体となっていて、学校教育と社会教育をどう一体化するのかが地域の課題となっている。コミュニティスクールが活発なところは、かなり過疎であったとしても、「子どものために」ということで、地域ぐるみで親や祖父母世代も協力的である。社会教育委員の役割は、単なるコーディネーターではなく、現場に入っていく、活動を一緒にすることが重要。学校でも地域コーディネーターという人がいるが、地域コーディネーターも自ら現場に入っていくのが大切という事例を紹介した。それぞれの地域で状況に格差はある。他所の事例を単にマネするだけでなく、自分たちの特性を生かす必要があり、自分たちが入って地域をよく知ることが長続きさせるためには必要。補助金を出しても、出したときは人が集まるが、補助金がなくなると集まらなくなる。子どもから、その母親・父親グループにつながって…と輪が広がっていくと長続きする。催

し物を行う際、子どもの発表の場をつくれば、親や祖父母世代も集まる。

【委員】私の班でも、子どもが輪の中心になってという話が出た。

【委員】私の班も同様だった。根本に、地域を愛する子供を育てようということがある。学校教育と社会教育がわかれているわけではなく、学校の中にも地域の先生が入ってきてもらった方がいい。

【委員】ゆめなりきは、お邪魔虫みたいだったが、自分たちから自治会に入り込んでいった。それがうまく人につながっていった。人とのつながりが大切である。

【議長】成木小は通学区を外した。保護者も成木小の教育方針に共感して、子どもを通わせているという事例がある。教育委員会ももっと門戸を開き、ほかの学校に行けるようにするのもいいと思う。ゆめなりきは、学校の状況などもうまく結びついていたので感じた。子どもたちが伸びていきやすい学校・地域になっていたのではないか。沢井の獅子舞は、以前は、ほかの地域に出て行ってしまうと参加できないという状況だったが、今は、子どもたちがいなくなり、大人も少なくなったため、他の地域からでも年齢が元来とは違っても受け入れる状況に変わった。

【事務局】いただいた意見を発表用にまとめる。発表者を決めていただきたい。

【議長】私が発表者となる。

～議長が当日発表者となるに決定～

(6) 第64回全国社会教育研究大会広島大会における分科会事例発表者の公募について (協議資料6)

【事務局】事務局から概要説明。社会教育委員として実践している事例はない。

【議長】青梅市としては特になしとして報告したい。

～異議なし～

(7) 12月定例会について

【事務局】今日で年内に話す必要がある案件は、事務局としてはない。次回は1月の定例会としてはどうかと考える。

～異議なし～

【議長】次回は1月18日7時からとする。

(8) その他

特になし

4 その他

【事務局】その他の配布物について説明。

【委員】東京大会の協賛団体に大会冊子が届いた。ありがとうございます。

次回定例会

1月18日(火)